

第9回 新花巻図書館整備基本計画試案検討会議 会議録

- 1.開催日時 令和4年6月9日(木) 午後2時～4時5分
- 2.開催場所 なはんプラザ COMZ ホール
- 3.出席者 委員出席者14名 堀合範子委員、小国朋身委員、山下牧子委員、白岩拓樹委員、藤井公博委員、佐々木史昭委員、高橋一矢委員、前野祐子委員、福盛田弘委員、高橋美香委員、佐藤恒委員、梅原奈美委員、平澤広委員、市川清志委員
- 欠席委員6名 熊谷恵委員、松田治樹委員、菊池桂委員、佛川恒明委員、佐藤敦士委員、小山田厚委員
- 専門家1名 富士大学 早川光彦教授
- 事務局6名 新花巻図書館計画室 佐々木室長、高橋次長、菊池主任主査、高橋上席主査、幅下主査、小田島主任
- 4.報道機関 なし
- 5.傍聴者 3名
- 6.会議内容

事務局(佐々木室長)

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、若干まだ見えていられない方がおりますけれども、ただいまから新花巻図書館整備基本計画試案検討会議の第9回目の会議を開催いたします。

会議を始めるにあたりまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

本日使用する資料は次第、名簿、それから前回、第8回の会議で使用いたしました資料1「新花巻図書館建設候補地選定検討資料」と、前回までの検討会議で集約させていただきましたご意見を反映した資料2「新花巻図書館整備基本計画試案のバージョン2 未定稿」というものです。こちらを使用いたします。それからその他の参考資料といたしまして、市指定史跡花巻城跡調査保存検討委員会の検討内容ということでお配りをしております。資料につきましては、それぞれお持ちでない方のための準備をしておりますので、本日お持ちでない方につきましてはお申し出をいただければと思いますが、大丈夫でしょうか。

また、この会議につきましては議事録を作成して公開しておりますので、ご発言の際はマイクを使用させていただくようお願い申し上げます。

それでは開会にあたりまして、この会議の座長であります市川生涯学習部長からご挨拶申し上げます。

座長

皆さん、こんにちは。今日は皆様ご出席を賜りまして大変ありがとうございます。

今、花巻東高校が東北大会で東北高校と試合しているという状況なんですけれども、最近特に富士大学も頑張っておられて、花巻といえばスポーツ、野球というイメージが定着しているのですが、よく、スポーツと図書館はまた別じゃないか、と考えている方もいますが、皆様はご存じのとおり当然そこは別なものではなくて、密接に関係していると私も思っているのですが、菊池雄星投手はかなりの読書家ということも知られていますし、自分の目標を達成するような人というのは、小さいときから図書に恵まれる環境にあったのだらうと思うわけで、そういう意味でも花巻の図書館というのは重要だらうと思っておりま

す。

明日から市議会が始まります。今回 10 名の市議会議員の方々が一般質問に登壇されますが、4 名の方から図書館の質問があり、多い状況でございます。図書館についてはやはり皆さん関心も高いと思っておりますので、市議会でもきちんと状況を答弁させていただいて、市民の皆様にもご理解いただけるように、テレビ等、インターネットでも記録をご覧いただけるようになっておりますので、しっかりご説明をしていきたいと思っております。

今日は前回に引き続きまして建設場所についてのご意見をまたお聞きできれば、と思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

続きまして、毎回確認をしておりますが、本会議は原則公開ということでやっておりますが、設置要綱の第 7 条および第 8 条で非公開のほうが良いというご意見がある場合は非公開とするとなっておりますが、公開することによってよろしいでしょうか。

それでは公開ということで行いたいと思います。

事務局（佐々木室長）

それではさっそく議事に入りたいと思いますが、これ以降の議事運営につきましては座長にお願いしたいと思います。

座長

それではここから私が進行をいたします。

前回 4 月 28 日の検討会議では、新花巻図書館の建設候補地について資料を事務局から提示いたしまして、これまで 2 つのエリア、6 つの候補地についてご説明をしてきたところであります。前回ご欠席の委員の方もいらっしゃいますので、その欠席の委員の方からもご意見をお聞きしたいと思っておりますし、前回に加えて若干の資料もございます。また、前回の会議後に皆様所属の団体等で話し合われたようなこともあろうかと思っておりますので、前回に続いてご意見をいただいてもかまいませんので、そのようにしていきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

座長

よろしいですね。はい。

まずは前回の会議以降の追加で報告事項を事務局のほうから説明をお願いいたします。

事務局（高橋次長）

事務局の高橋でございます。着座にて説明させていただきます。

前回説明した資料から、改めて各建設候補地における特記事項について、説明させていただければと思います。

資料 1、前回お渡しした、A4 版の横の資料をお手元にご準備願います。前回の資料になります。8 ページから 12 ページをご覧ください。

まなび学園周辺の特記事項として、旧総合花巻病院解体工事についてでございます。解体工事は現在のところ順調に進んでいると聞いておりますが、前回もお話した人工地盤部分の南側、この 8 ページの図面でいうと駐車場になっている部分ですが、ここは 3 年後を目途に撤去することにし、総合花巻病院と市で協定を結んでいる状態でございます。

花巻病院については以上です。

引き続き 13 ページをご覧ください。13 ページと本日お渡ししました参考資料と書かれている教育委員会文化財課から図書館計画室長あての文書を併せてご覧になっていただければと思います。

こちら、まなび学園周辺の市史跡花巻城についてでございます。前回の会議後に文化財課のほうで花巻城跡調査保存検討委員会が開催されました。参考資料は検討された内容についてですが、内容としては花巻病院の駐車場部分。東側がちょっと落ちている駐車場部分になりますが、12 ページをご覧になっていただければと思います。12 ページ、総合花巻病院跡地に関することという資料がございますが、右側のほうに駐車場部分があるかと思えます。花巻小学校と花巻病院の間の谷部分になりますが、こちらが市史跡花巻城跡の濁堀跡という遺構になっているようでございます。こちらは病院の建設等を受けて、改変を受けておりますが、調査委員会のほうでは濁堀は病院の建設等で改変を受けているが堀の景観は残されており、一級品の貴重な遺構であることからできるだけ現状のまま、こちらは堀の規模が分かるように保存することが望ましいとの結論が出たとの回答を受けております。

今回、花巻城跡調査保存検討委員会の検討内容を受けまして、堀の形態をある程度保存する必要、図書館を建てた場合、堀の形状ある程度保存することを検討する必要があると考えておりまして、上部の平坦地、今、建物がある部分については予想より少し縮小する可能性があります、現時点で想定する図書館の床面積は確保できるものと考えております。

また今後、堀の下部、駐車場部分がアスファルトになっていますが、アスファルトの部分や堀の残存部分をどのような取り扱いにするかにつきましては、総合花巻病院との関係もございまして、引き続き教育委員会と情報共有を進め、動きがあればご報告をさせていただければと思います。

続きまして 14 ページをご覧ください。

こちらは道路に関することです。まなび学園周辺、市道城内大通一丁目線につきましては、この線という赤い線になります。こちらにつきましては歩道がなく危険な状態であることから、歩行者の安全を確保する必要があります。万代橋から直線でつながる都市計画道路の整備については時間も金額もかかると考えておりまして、現時点では現道に歩道を設置することで建設部が住民説明会を実施いたしまして、幸橋から西側 1.5 メートル、幸橋を含む東側 2.5 メートルに歩道を整備することで地権者や住民の方々から概ねご理解をいただいているとの報告を受けております。ただし、1.5 メートルの幅の歩道では、歩道を自転車が通行できない可能性がございまして、それについては花巻警察署との協議が必要であるとのことであります。自転車の通行についてはまだ課題が残っているところでございます。

次に資料の 16 ページをご覧ください。

こちらは花巻駅周辺の特記事項になります。JR 用地、スポーツ用品店敷地を候補地とした場合、当該用地の買収について JR との協議が必要になります。現在、駅東西自由通路についても検討を進めておりますが、橋上化については今後建設部で市民説明会により市民の皆様の意見を踏まえて事業実施の可否を決めていくものと伺っております。橋上化事業と新花巻図書館整備事業は全く別の事業ではあります。JR 東日本は基本的に所有する土地の売買はしないこととしておりまして、新花巻図書館について売買交渉を行うとした場合、かなり例外的なものであります。橋上化ができなかった場合、売買交渉に影響があることも想定されるということ考えております。

なお、参考までに橋上化について建設部に確認したところ、JR 東日本東北工事事務所の調査は 6 月末に完了予定でありまして、内容を市内部で精査した後、議員の皆様や市民の皆様、関係団体の皆様に公表して説明する機会を設けるとのことでした。

以上でございます。

座長

今の報告について、何かご質問ありますでしょうか。
よろしいでしょうか。はい、佐々木委員。

佐々木委員

6月末にJRで検討の結果が出るということなのですが、駅前案についてはJRさんの考え方に著しく左右されるわけで、橋上化をして市にスポーツ用品店の跡地を購入させていただいて図書館を建てるという案が、現実可能な方向でJRが議論していただけるということを前提にさせてもらえるのであれば前向きな議論がここでいろんなことができるんですけども、そもそもJRがその方向で考えているか考えていないかというのはどの程度市のほうでは把握しているのでしょうか。

事務局（高橋次長）

JRは交渉のステージにはきちんと乗っていただけるというお話ですので、まずは、場所がどちらになるかというのをJRにご提示させていただいて、交渉のステージに乗るものと考えております。現時点では、JRさん側が全然交渉に乗らないということではなくて、売買の交渉には乗ってくださるというふうには伺っております。

佐々木委員

そうしますと1つの案として駅前案というものがあるわけですが、その駅前案を考えるにあたっては、スポーツ用品店の跡地を案として議論をして、橋上化の案はJRさん側で、おそらく図書館がここに来ると来ないのではJRさんの駅舎計画そのものにも影響があると思われるわけですが、両方とも同じ方向を向いて考えても、十分その方向で議論することに意義があるということによろしいんですね。

座長

花巻駅の東西自由通路というのは、つまり今は改札が東口にしかなくて、西口に行くには地下を通って行かなければいけないという状況です。これを橋上化、つまり橋を架けまして上のほうに改札をつくらせると。そうして東にも西にも抜けられる。まあ都市部であればそういうのはありますね。よく見られるので、西側の利便性を図るという意味合いが強いんですけども、合わせまして西と東も交流も来やすくなるだろうということもあろうかなと思います。

これはJRの工事というよりは花巻市がお金を出してやる部分が多いわけで、それについての金額なり調査をして、これを精査して市民の皆様にご説明したいというのが建設部の考え方です。ですので、このJRの東西自由通路と図書館というのは全く別の事業ではあるんですが、ここで言っていたのは、JRは基本的に土地を売らないと言われていたんですけども、場合によっては交渉に応じてよいというふうにJR側は話しているということで、あくまでもJRも図書館を含めて開発とかというのを考えているということではないです。

佐々木委員

もちろんそれは理解しているんですけど、駅舎のほうだけを考えると、駅舎についてはJRさんの保有するものでしょうし、市が駅舎に関してお金を払うということもあるのでしょうか？

事務局（高橋上席主査）

私は建設部も兼務しておりますので、私からお答えします。

市が JR の施設にお金を出すということは基本的にはないんですけれども、今回の自由通路整備にあたっては、自由通路を整備するために現在の駅舎が支障してしまう。いわゆる道路の補償と同じ考え方で、駅舎が支障して壊さなければいけないので、その代わりに駅舎を補償費でお支払いするという考え方がなります。なので、基本的には市とすれば、本来であれば駅舎の部分はお支払いしないんですけれども、支障するため最低限の補償をさせていただくということでございます。

座長

ほかにご質問の方はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、今の説明の部分については以上といたしまして、これも踏まえまして建設候補地についてのご意見を前回に引き続きいただきたいと思います。

はい、山下委員。

山下委員

前回、第 8 回の検討委員会で、佐々木委員さんから商工会議所の立場からのご意見が述べられました。JR の土地を買い取る形にすれば市有地ということで、そこに図書館を建て、立体駐車場も 2 階にして、駅舎の整備を JR と一緒に進めれば経済的にも少なくて済む、というお話でした。そうすると活気のある駅前になると言われましたけれども、果たしてどれほどまちづくりと関連した活気ある場になるだろうかという疑問があります。

また、立体駐車場は、どうしても土地がなくて、狭くて立体にするほかはないということで立体駐車場になるのですが、そういう立体駐車場にすることの必要のない場所に、私たちは、そうだからこそ病院跡地に図書館を、というふうに希望しているわけです。それから病院跡地に建設しても合併特例債とかその他の補助金も使えるという以前のお話でした。

それから、また前野委員さんが花巻病院跡地というのは土地の買い上げが必要ということでもいいですか、という質問に一言で「はい、必要になります」と一言でお答えになったのですが、これだけでは丁寧な説明になっていないと思います。旧厚生病院跡地に花巻病院が移るという大仕事をした後ですね、その仕事を完成させたときから花巻病院跡地は花巻市に適正評価額で市のもことになるというふうに決まっていたのではなかったんですか。もちろん市ではその価格の予想もしっかりあるはずだと思っておりますが。それから同じ「買い取る」という言葉としても佐々木委員さんの JR の土地を買い取るという、同じ「買い取る」という意味合いはこの場合、ずいぶん違う説明になるはずではなかったかなと、そのように思っています。

それから説明不足という点では、平成 28 年 6 月に花巻市の立地適正化計画を公表した中には、はっきりとまなび学園周辺へ移転、というふうに明記されていますが、しかしこのことはワークショップのときにも 1 回も説明されておりましたね。言われておりませんでしたね。それから、それを受けて平成 29 年 8 月には花巻図書館整備基本構想が出されておりますが、その後突然に UR 報告書に駅前という、駅前東口周辺と出ていたのは不自然ではないか、ごり押しではないか、と思いますが、どうでしょうか。

それから JR 駅の東西自由通路についての説明会では、先ほど市川さんがおっしゃいました、自由通路と図書館は別物ですとおっしゃいましたけれども、これは別に考えるという、この説明会、東西自由通路の説明会の中では別々に考えるようにというお話でした。この駅の自由通路のこともあって、基本構想から 6 年も経っているのに場所が決定されていないということは、この駅との関係が深いからではないで

しょうか。一関図書館は基本構想から 5 年のうちに開館になっているんですけれども、この辺のことに
ついて、何ていいますか、丁寧なご説明をお願いしたいと思います。以上です。

事務局（高橋次長）

前回、私が前野委員のご質問に対して回答について会議の時間が少なく説明不足だったことを考えて
おります。

あのときお話した「必要になります」ということにつきましては、花巻病院側と協定書を締結しており
ますので、協定書のそのままの部分を読み上げさせていただいて説明とさせていただきたいと思
います。

まずは山下委員がおっしゃるとおりの部分もごさいますが、令和 3 年 11 月 11 日に総合花巻病院と
変更協定を締結した第 2 条の 7 に、第 2 条自体は「乙の甲に対する土地の譲渡返還」という書き方にな
っていますが、2 条の 7 で「本件土地の所有権移転に係る対価はその算定のため乙が現在の病院施設等
の取り壊し後に甲乙それぞれが不動産鑑定評価を実施したうえで、当該評価を基準として甲乙協
議のうえ決定する」ということが記載されております。

ですので、どちらかが出した額で市が買い取るということではなくて、市側、花巻病院側でも
不動産鑑定をしたうえで交渉させていただいて価格を決めるということでしたので、買い取りが
必要ですがとの問いに対して、「必要です」という回答をしております。

まずはこの部分については以上でございます。

座長

あとお話できるとすれば、立地適正化計画において、まなび学園周辺に図書館を移転するとして
おり、街中に施設を集約してコンパクトな街をつくっていきましょうという計画ですね。そのとき
にはそのように書いておりました。それは事実でございます。

ただ、その立地適正化計画にすべて縛られるわけではなくて、ワークショップで皆さんのご
意見を聞いたり、それまでも市議会の特別委員会などもございましたし、そういう中で候補地
として適する場所を考えてきました。そういうところで、なにもそのまなび学園のところ
だけに絞ったわけではなくて、駅も含めて 6 カ所、あるいは 7 つのパターンをお示しして
きたということですので、そこはご理解をいただきたいと思
います。

あと何かありましたか？

山下委員

図書館にしなくても、いずれ病院跡地は市のものになるというか、そういうこと
ですね。

事務局（高橋次長）

現時点では市のものになるというよりは、市と病院とが価格を決めて市が買い取る
という部分までが協定で決まっているものかと思
います。それを何に使うかの考え方は、いろんな考え方で進めていくのだ
と思
いますけれども、すみませんがその部分の資料が今手持ちでない
ので、ただ、それを何にするかという部分は、今回の会議も含
めていろんな方向性があるのかなと考えておりますが、確定
した部分ではごさいませんので、今答えられる範囲で答えさ
せていただければと思
います。

座長

よろしいでしょうか。ほかにご意見ありますか。

福盛田委員。

福盛田委員

今、山下委員からいろいろお話がありましたが、さっき座長が言ったように駅の橋上化と図書館は別物というのは当然だと思います。図書館のほうが早く駅前構想が出てきて、途中からというか後から出てきた話なので、何か結び付けて図書館は駅前が有利みたいな感じで進められるような感じがしているんですよね。何か東と西との通路ができれば図書館の利用者も多くなるという結びつきは出てくるかもしれませんが、今の時点ではそういう考え方ではなくて、駅前の図書館ということを考えるのであれば、そっちのほうだけの考え方でいいと思いますが、何か橋上化にして、さらにプラスしたような感じに見えます。そんなことによってまた市の財政に負担が掛かることになってくると思うので、図書館がまた1年遅れということも考えられます。そういうこともちょっと心配しております。以上です。

座長

はい。何かありますか。

東西自由通路が後から出てきたかどうかということをおいいますと、そもそも昔からというと変ですけども、西口に改札所がほしいという要望とか、市の計画の中でも調査事業として東西をつなぐような、改札を西側からも入りやすいように検討してきた経緯がございます。それで、今回はその東西自由通路というのができるかどうかというのを調査しているわけですけども、いくら金額が掛かるかとか、どういふふうにすればできるかというのをこれからお示ししていくことになると思います。

ただ、これはやはり図書館とはあくまでも別な事業としてやっていますけれども、大きな意味でまちづくりと考えると、やはり関係がないわけではないだろうなというのをご理解はいただけたと思います。ただ事業としては一緒ではないということです。

ほかにご意見の方。はい、藤井委員。

藤井委員

藤井でございます。前回、ちょっとほかの会議と重なって欠席してしまいましたが、候補地の問題についていろいろ議論があることは前から存じ上げておりますが、自分がこの委員会に出席している立場は、障がい者団体を代表している、と。これは市からの指定でございます。それからもう1つはですね、高齢者の団体、老人クラブですね。こちらのほうからは代表がいらないんですが、私自身花巻の老人クラブ連合会の役員をやっております。ですから、いつか会長のほうからも話があったのですが、老人クラブのいろいろな会議の中でも図書館の必要性、場所、その他いろいろ議論になって、皆さんの意見を聞きながら、藤井の判断に任せる。ただし、ちゃんと報告だけはしてくれ、という立場でいつもこの委員会には参加しております。

現在老人クラブの会員が4000名ぐらいおります。それから障がい者団体の会員は400名です。ただし、医師の判断で障がい者手帳を交付されている方は4,000名おります。ただし、老人クラブも身体障がい者福祉協会も任意団体でございますので、60歳以上になれば必ず老人クラブの会員でもないし、手帳を交付されても障がい者の活動について賛成の方だけが加入しているという立場でございます。

ただ、そういう中で、やっぱり一番皆さん、ずっと第何回までは図書館の形態だとか、借りやすくするためにはどうするかとか、運用の問題をずっとやってきたわけですね。ですから内容については、私たちは老人クラブにも障がい者団体にも報告して、非常にすばらしい議論になっているよ、と。するとやっぱ

り、じゃどこに建てるんだ、というのがずっとあったんです。それで、電車に乗るときにですね、西口から東に回ってからしか乗れないというような駅は、東北本線の中で一関とか水沢とか北上とか、大きなところですね。それから中小でも矢巾とか、こういうところはもう通路がちゃんとあって、自由に西でも東でも乗り降りできる、と。それで橋上に1カ所あればどちらからもやれる。さらにそういうところのほとんどがエスカレーターがあるところもありますし、エレベーターがあるところもございませぬ。ですから障がい者の方々もそうですし、高齢者でもほとんど歩行が、両方に杖をつかなきゃだめだというような高齢者も今はどんどん増えております。ですから、そういう立場からすると、図書館が市の活性化のために必要だということは大前提で議論を今までやってきたわけですね。ですから、そういう面では今後、公共交通機関というのは東北本線と花巻の場合は釜石線と2線しかございませぬ。で、私自身は東和町におりますので、やはり花巻でちょっと酒を飲み過ぎると釜石線に乗って土沢駅に下りてタクシーで帰るといこともございませぬ。そういうふうにはですね、やっぱり公共交通機関が利用できる、そこを中心に街の活性化が進んでいるところが非常に多いということは事実だと思ひます。ですから、西口の人口増加が増えていくということは統計的にもはっきりしているようすです。ですからますます西口の人口が増えていくということも事実だろうと思ひますので、できることであれば、ですよ。できることであれば、まあ、後から出てきた話だというようなことでもございませぬけれども、むしろもっともっと前から花巻の発展のために、花巻市街の発展のためには橋上の通路があるべきだったろうと思ひます。ですから、西口の自治会の方々とも意見交換をしたことがあるのですが、いずれ地下道を女性が夜になって通行するのはおっかなくてだめだ、と。表に出てきているような痴漢行為ばかりでなく、おっかなくて通行できないということがはっきりしているようすです。ですから西口の各自治会の方々も統一して早く橋上ルートをつくってくれということも事実のようすでございませぬから、そういう市の全体の発展と地域住民の希望と、それから図書館の有効性を考えて建設場所は議論していくべきではないかと、私は考えております。

ですから、この資料で1ページに花巻市立地適正化計画・都市機能誘導区域を青で囲んでいるのですが、西口のほうはちょっとしか範囲がないんですけれども、これはもっと広げて、都市機能をですね、これはむしろ私は西口も有効に活用し、駐車場も整備し、有効に橋上ルートを通して活性化していけば、駅周辺に図書館をつくるのは非常に有効ではないかという意見を持っております。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

何かありますか。

今、お話のあった1ページ目、2ページ目ですけれども、これに書いてある青い部分が都市機能誘導区域というところですね。つまりここに都市機能を誘導しましょう、と。先ほども申しました通り、1回広がりかけた街をもうちょっとコンパクトにしましょうという区域がこの青いところですね。これはいろいろなデータに基づいて。例えば浸水しない区域とか、防災上とか、いろいろそのような中からこの区域を設定してきたはずだと聞いていますので、ここにまず集約しましょうということです。ですので、西側に広げるとなるとまた話は違うんですけれども、この中に図書館をつくりましょうという中で、駅の近く、あるいはまなび学園の辺りはどうだろうと候補地としているところす。

では前回欠席されていた委員からまずお話をきければ、と思ひますが、高橋委員はご意見何かありますかでしょうか。

高橋一矢委員

私は今年度から委員として参加をさせていただいておりますけれども、前回ちょっと都合で出れなかったものですから、皆さんのお話を聞きながら、いただいた資料なんかを見ながら、私なりにこう、まあ、どこじゃなきゃいけないというのも大事なことなんだろうなと思いますけれども、先ほど来いろいろお話が出ている中で、じゃあいつになったらできるんだというお話も当然あると思います。

やはりどこに、というある程度の目安というんですかね、目標を設定しないと、皆さんからのお話を聞いていけばなかなか終わりも見えないのかな、という部分もありますし、何ていうんでしょう、駅前につくるにせよ、病院の跡地につくるにせよ、費用はそれなりに掛かると思いますので、その費用がどのぐらいのものかというのが、将来的な部分ですか、年数がどれぐらい、工期を含めて、来年度からスタートすれば何年後にできるんだろうか、それにはこれぐらいの費用が掛かるとか。まあ当然その周辺道路のアクセスの部分も含めてですけれども、そういうものも見えていかないと、あっちだこっちだというお話だけではなかなか進まないんじゃないかなというふうに私は今ちょっとふと感じた部分ではあります。

あとはやはり皆さんが集まってというか、集える場所、図書館として楽しめるというか、小さい方から年配の方まで、いろんな方が来て「よかったな、楽しかったな」と言える場所であってほしいなということ是非常に感じておりますので、そういう部分については、私も PTA の役回りなんかでこちらのほうに参加させてもらっていますけれども、やっぱり子どもたちが「図書館に行こうよ、花巻の図書館はすごく良いところだよ」と言っていただけ、そういう場所であってほしいなと思っております。

ちょっとまとまらない話になって申し訳ございません。

座長

はい、ありがとうございます。

こう言うのはなんですが、まず皆さんのお話などを聞きながら、そういう意見もあるんだな、というのを聞いて自分もそのほうがいいかな、とかというところもあろうかと思っておりますので、またちょっと皆さんの意見も聞いていただいておりますので、お話いただければと思います。

ご意見、ほかにありますか。前回話されたことと同じというか、変わりなくてもご意見いただければと思いますが、いかがですか。

はい、白岩委員。

白岩委員

まると市民会議の白岩です。前回もお話したんですが、口でしゃべるとまとまらなくなるので、A4の紙で皆さんにお配りしている紙に書きました。まると市民会議というのは2年前の市民図書館ワークショップに集まった中で、このままでは新しい図書館の行き先が心配だなという有志が何人か集まってできた市民グループで、その中でいろいろ話し合ったり、いろんな意見が出て話し合っているグループです。

これまでの経過で、この前も話したんですが、建設地については4月4日に山下さんの新花巻図書館を考える会と一緒に要望書を市のほうに提出しました。それはここに書いてはありますが、今まで市民ワークショップから考えて2年間経っていろんな意見が出たので、もうそろそろ場所を市長レベル、首脳レベルでもう決定をお願いします、と。いろんなまちづくり計画とか予算とか、いろいろ総合的に俯瞰的に見て市のトップが決めるべきじゃないかなと思って、そういう「即決断をお願いします」という要望を出しました。

うちのほうでは特に場所はここだというのは決めていなかったのですが、最近ちょっと大体うちの意

見をまとめたやつで、立地適正化計画の中の JR 花巻駅周辺かもしくはまなび学園周辺でいいんじゃないかな、と。第一希望としては JR 花巻駅周辺が大体全体の 6、7 割ぐらいの人がそっちのほうがいい、と。なぜかと言いましたら、やはり高校生とか学生とか観光客の方が使いやすい、と。あと、花巻市外からの利用者や情報が集まりやすいんじゃないか。あと、公共交通ですね。駅前はちょっと土地が狭いんですが、立地適正化計画の中ではコンパクトシティとか、JR やバスの公共交通の維持というか活性化も書いていますので、それに合致して花巻のまちづくりに図書館が十分関与できるのではないかというので第 1 希望という我々の意見があります。

まなび学園はちょっと駅から離れているんですが、そんなに駅から遠いわけでもないので、第 2 希望ということでまなび学園を。その両方のどっちかでもうそろそろトップレベルで決定して、市民の方々にこういう経緯で決めましたと説明してくれればいいんじゃないかなという我々の意見です。

それで、例えば JR 花巻駅周辺に関して出た意見の中には、2 年前の複合施設、賃貸住宅との複合施設の整備事業という話も出て、反対意見が出て、それがなくなったんですけど、今、複合施設、岩手県立図書館でもそうなんですけど、図書館コンシェルジュというのがいまして、それは総合案内。要はレファレンス機能をもっと深めた総合案内という方々がいます。あと、北海道かどこかでも、掲示板か何かで図書館コンシェルジュというのをやっています、要は総合案内人という意味でして、例えば集合住宅にもコンシェルジュとって、フランス語で集合住宅の管理人とかホテルの世話係という意味があるそうなので、ある意味集合住宅の中にある図書館は、そういう総合案内役、本の案内役というのを表現しているのではないかなと思って、それで集合住宅の中に図書館があってもよいのではないかという意見があります。

あと、駅前ちょっと狭いんですけど、今、なはんプラザで、ここになはんプラザがありますけれども、なはんプラザに図書館機能を一時移転して、20 年くらいなはんプラザを図書館として利用する方法もあるんじゃないか、と。改修とか補強工事があるかもしれないですけども、予算がかからないんじゃないかなという単純な考えもあります。そういうのもあるんじゃないかというアイデアが出ています。

うちのほうでは大体そういう、どっちかという JR 花巻駅周辺がいいんじゃないか、という意見が多く出ています。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

事務局（高橋次長）

ご意見ありがとうございます。

ご意見として承りたいと思いますが、1 点だけ市のほうの考え方としては、複合施設として再考をしてもよいのではないかというご意見を今頂戴しましたが、こちらのほうは、従前にお話させていただきましたが、市議会の花巻市図書館整備特別委員会の提言の中で、基本的には複合ではなく単独ということでお話をいただいております。今回の議論の中では単独という考え方を進めさせていただければと思います。

あともう 1 点。高橋委員からご確認がありましたスケジュール感のお話ですが、本日の資料 2 のほうの未定稿ではありますが、試案のバージョン 2 ということで整理させていただいたものを皆さんのお手元のほうに準備させていただいております。16 ページをご覧くださいと思います。

16 ページの中段。図 5 というところで基本計画策定から開館までの流れということで図示させていただいております。こちらは白岩委員のほうから図示したほうがわかりやすいのではないかということで

図示という形にさせていただいておりますが、現状、まだ一番左側の状態です。これだけ工程がありますので、来年から始まって何年ということは、それぞれの細かい精査、スケジュール調整等々が必要ですので、はっきりと何年を目標にしていますというのは、今の段階お示しできないのが大変恐縮でございますが、これぐらいの工程で、これが全部そのとおりではないんですけれども、これぐらいのスケジュール感で今やらせていただいているということでございます。以上でございます。

座長

ほかにご意見ございませんでしょうか。

はい、前野委員。

前野委員

私も端的に言って、JRの駅前に図書館があればいいなと思っている1人です。

なぜかと言うと、やっぱり駅前に図書館を設立したところを確認すると、まず間違いなく利用者が増えている。図書館の利用者率が格段に上がっている。やっぱりそれは、今まで結局図書館に足を運ばなかった通勤者であったり、もちろん駅を利用する若者たちであったり、そういう人たちが気軽に立ち寄れる。そういうメリットが大変大きいということだと思っております。

私がちょっと思っているのは、そういう機能を携えた中心となる図書館は駅に。そして例えばまなびとか周辺は本当に閑静で自然も多く、今子どもセンターであったり、あとももちろん皆さんがいろんな勉強をするまなび学園の中に足を運ぶ機会がいっぱいあるので、そっちのほうに分所みたいな、分館？何でしょうか、今は閉鎖していますけれども、まなび学園のラウンジルームのところにとなたかが持ち寄った文庫がバーっと並んで、ご自由にお読みくださいというコーナーがあって、ああいいな、と思って見ていたんですけど、そういうふうに、例えばまなび学園の中にそういうふうなルームを1室設けて、そこに図書室の機能を持たせる。それで、子どもセンターのほうにももちろん図書室があるので、子どもたちはそこから借りて、私は読み聞かせをしているのですけれど、そういうふうに子どもたちが足を運んで、自然に交わりながら本も借りれて身体も動かしてみたいな、そういうふうな機能があるので、結局、図書館は駅前だけという、そういうイメージではなくて、花巻はどこに行っても本がありますよ、みたいなイメージで広げていけたらいいなと思っております。

だから、変な話、今現在の図書館のところも、ぎんどう公園の近くで文化会館があって、とてもいい環境にあるので、あそこだってもし可能であればちょっと手を入れて改築して、あそこでも本が借りれるようにとか、何か本当にそこに行かなきゃいけないんじゃないじゃなくて、本拠地は駅前の図書館。で、例えばいろんなところで分所という形で本が借りれる、そういうふうなスペースが市として機能できたらものすごく豊かな花巻市になるんじゃないかなという構想をちょっと頭の中で描いているんですけど。

なので、例えば駅前のホテルとタイアップして、宿泊していらっしゃる方にも駅前の図書館を利用できますよ、と。例えば券を持っていけば借りることもできます。それでお返しするのはホテルのところでお返ししていただいて結構ですとか、何かそういうふうに外から来てくれた方にもそういうサービスができるみたいな、本当に花巻市全体をそういうふうな流れに持って行けたら、せっかくの宮沢賢治の名前だけではなくて、そういう文学であったりとか、自然であったりとか、思想であったりとか、そういうものを肌で感じられるような図書館というか、本を通してそういうふうな空気が醸し出せたらとてもいいなと勝手に思っています。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

事務局（佐々木室長）

ありがとうございます。

すごく貴重なご意見だなと思っておりまして、まなび学園は実際に子どもセンターのほうに絵本だったりとか児童書を置いて、実際に貸し出しをしているということもありますし、おっしゃっておられましたとおり、ロビーのほうに、実はあれはシニア大学という団体がございまして、まなび学園で運営しているんですけれども、シニア大学の有志の方から提供いただいた本をあそこで皆さんに見ていただいているということも、コロナ前でありましたけれども、やっていたという経緯はございます。

いろいろなところに本を置いて、皆さんに楽しんでいただくというのは非常にすばらしい意見かなと思いますけれども、なかなか人とか予算とかの問題がございまして、その部分は解決していく必要があるかなというふうに思いますので、一概に、すばらしいのですぐにやりたいです、とは言えないというところはありますけれども、大変に貴重なよい意見だなと思っております。ありがとうございます。

座長

ほかにご意見は。

はい、堀合委員。

堀合委員

堀合です。

確認させてください。当初は、と言いますと1年くらい前は、もし駅前につくるとしたら立体駐車場は4階ということで提示されていたと思いますが、前回は2階ということでよろしいわけでしょうか。

事務局（高橋次長）

ご質問ありがとうございます。

立体駐車場につきましては、実は今、駅前だけではなくてまなび学園も含めて考えて、駐車場がどれだけ必要かというのを詳細に計算しております。その中で、当初の計画、駅前は4階建てが必要ではないかということも考えていたのですが、現状2階建てでも様々なやり方、駐車場を考えると2階でも足りるのではないかと。建てるだけではなくて、駅前のいろんなところを利用することによって、立体駐車場は2階でもいいんじゃないかという部分の計算にはなっております。

そこで、先ほど堀合委員がおっしゃっていただいた部分に関しては、現状ではまだ確定ではありませんが、4階ではなく今は2階も検討し始めているという段階でございます。

堀合委員

はい。と申しましたのは、実は前回も話題になりましたが、高齢者それから妊婦さん、それから障がい者、子どもを連れた人にとって立体駐車場というのは非常に不安要素が大きいと言いますか。ですが、今確認したとおり、2階建てで1階が84台停められるということになれば、当初私は、1年前は42台ということで、それでは2階、3階に停めなきゃならない人も出るのかなと思っておりまして、84台停められるということですので、かなりの台数が停められるのではないかなということ、少し安堵しております。

それから、前回以来、建設場所としてまなび学園周辺と駅前ということが挙げられておりますが、本当にどちらでも良さがあると言いますか、そしてまたどちらでも多少なりとも課題はあるというふうに考えております。ですが、いろいろ考えまして、現在、今日示された図書館利用者アンケートを見るとわかりますが、10代が6%という数字。そして60代以上が半数以上ということで、なぜ10代は少ないのかということを考えてみたときに、やはり車を持たない10代の高校生とか若者とか、もっと小さい人たちは、やはり交通の便がいいところだともっと利用してくれるという期待が持てるのではないかな、という気がしました。今現在、私はどちらでもよろしいのですが、図書館をもっと多くの人に利用してほしいと考えたときに、やはり交通の利便性が高いということは大きな要素になるのではないかなと思ひ、私の中では駅前のほうがそういったことを期待できるのではないかなという気がしております。以上です。

事務局（佐々木室長）

駐車場について少し捕捉させていただきまますと、駅前であっても、例えば病院跡地であっても、配慮が必要な方の駐車場はなるべく施設の近くにつくるということを今検討しているということでございますので、その辺のところは、何十台になるかわかりませんが、10台、20台、30台というところで配慮が必要な方の駐車場を確保するという事は検討の俎上に載っているというものでございます。以上です。

座長

ほかにありませんか。

はい、白岩委員。

白岩委員

白岩です。

駅前とかどこの場所でも、建設地がどこの場所に建てるにしても中心になってくると思うのですが、例えば高齢者とかなかなか車とかで移動できない方の場合は、アウトリーチという…。図書館に行けない方への支援というの、例えば図書館のほうからその方に届けるとか、そういう方法もあるらしいんです。

それで、先日の日曜日に花巻市図書館のスキルアップ講座第1回というのがありまして、そのときに図書館の5法則という講義をされて、私も出たんですけど、そのときに法則はいろいろあって、いずれの方にもすべて本を読者に提供するという法則があって、やはり行けない方に関してはどうやって届けるかとか、そういう方法もあると思うし、あと50年ほど前ですが、東京の日野図書館って先進地図書館の先駆けの図書館は、建物より先に移動図書館から始めたらしくて、大体同時だと思うんですけど、主に移動図書館から市民の方に本を届けるというのから始めてその後に建物という順番というか、そこがもう今の図書館の原型というか、公共図書館のモデルになっているらしいんですけど、そういう方法もあると思いますので、これからのSDGsとかって、車じゃなくてなるべく公共交通を使いましょう、車はできれば不要に、自宅から出さないでおこうという、これからのそういう世界の流れの中で、やっぱり車で駐車場というよりも何年か先の、何十年か先の都市づくりというかスタイルも考えて見据えた形で考えたほうが良いと思います。

例えば、もう1つ言うと、さっきの開館の計画の流れの中で、何年、何年と決めれないと言っていましたけれども、例えば、先ほどの16ページですか。やる項目は決まっていますが、何年、何年と決めれないと言っていますけれども、この前の図書館の5法則で言えば、読者の時間を節約せよというの法則に

なっていて、これは読者、利用者の希望に沿って本を、レファレンス機能をしないと、読者の読む時間が少なくなる、と。それが積もれば経済的損失にもなりますよ、という話もありまして、結局、何年、何年と決めないと、ただ1年2年と経つと、やはり、何て言うかな市全体としての経済的損失というか見えない損失があると思うんですよ。だからきちんとそれは何年までにと、まあ無理であるかもしれないけれど、一応目標として何年までにこうなるとい日程を決めてやるべきだと思いますし、それと並行して、建物ができなくても、さっき言ったように移動図書館でできることとかそういうほうも並行して、ソフトなサービスも並行してやるようにしていけば、市民の方の図書館に対する考えも違ってくるんじゃないかなと思います。以上です。

事務局（佐々木室長）

現在でもブックモバイル、いわゆる移動図書館はやっておりまして、その辺を図書館のほうから簡単にご説明いただいているいいですか。

移動図書館の話ですね。今現在やっているサービスということで。

梅原委員

花巻図書館も含め市内の4館すべての図書館で移動図書館車を運行しておりますが、花巻図書館でいえば、月に8日間、いろいろな地区を回っております。今日も運行日ですので、朝から回っていて、福祉施設や（図書館から）遠い小学校、住宅地などのステーションを回っております。（各ステーションには）毎月1回行っていますので、次の運行日まで本を借りることができますが、どのような本が読みたいかということをお伺いしていますので、それに沿った本を持って行ったり、もともと移動図書館車に積載している本がありますので、そこから選んでいただいたりしております。白岩委員にもよく利用していただいていたいました。

座長

はい、白岩委員。

白岩委員

私も移動図書館はときどき使わせてもらっているんですけど、例えばこの前のスキルアップ講座にしてもすごくすばらしいことはしているんですけど、これを市民の方がいつやっているかという知っている方は少ないんじゃないかな、と。この前行ったときには200人募集で100人いたんですかね。わかんないけど。なんかすばらしいことをやっているんであればもっとPR、宣伝とかもっと、例えば図書館に行ったときにスキルアップ講座のポスターも貼っていなかったようだし、確か募集用紙を受付に置いてあるだけだと思って、たまたま行ったときに見つけて、そのときに僕はスキルアップ講座というのを始めて知って行ったんですけど、すばらしい企画をしているんであれば、いろんなPR、宣伝とか働きかけとか、もっとすればいいんじゃないかな、と。例えば移動図書館にしても行くとあまり人もいないし、もうちょっとそういう工夫も必要じゃないかなと思っています。

事務局（高橋次長）

ありがとうございます。

白岩さんのご意見につきましては、先ほど前野さんからいただいた、いろんな場所で本が読めるというふうにご理解をさせていただいて、今後検討させていただきたいと思いますが、できれば時間もあるので

建設の場所のほうの議論を頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

座長

それではほかにご意見。ご発言されていない方で。

小国委員。

小国委員

小国と申します。では2つ。

駅口の関係ですか。というのは、私はずっと離れたところから見ていたわけですが、元々東口のほうの花巻のメインの中心市街地というんでしょうかね。そういうものだったのが、ここ数年の間に西側のほうにどんどん、どんどん商店から何から移っていったものですから、するとどうしても駅の入り口は東口だけで間に合ったものが西のほうが人口が多くなったりとか、あと商店街もそうでしょうし、利用者もそっちが増えてくるということで、行政がそれに対応しなければならなくなったのではないかとこのふうに考えていまして、確かに今現在西側のほうが、高校生とかも、今まなび学園があるところに南高校があったんですけども、それも西側に行って、東もあり北もありという感じで、みんな西側に行ってしまったということがありますので、それに時代とともに対応していかなければならないということになるかと思います。

それから、図書館の場所については駅前がいいのかなと。何て言うんでしょうね、最近の流れと言うんでしょうか、駅前にいろんなものが、図書館とか建ってきていましたので、そういう流れに乗ったほうがいいんじゃないのかなというような安易な考えですけども、そういう形で進めていったらいいのかな、と。

それとあと1つ。今、この会議を聞いていて心配しているのが、この場所を決めないと次に進めないという気はしますが、もう10年以上もいろいろ検討してきているという図書館でもありますので、もういい加減決めてしまって、次にどんどん進めたほうがいいんじゃないかなという感じを持っていました。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

10年間ずっと議論してきたわけではなくて、途中で、そもそも今の総合花巻病院の場所につくるという計画は出来上がってスタートしたけれども1回止まりました、というのがありますので、そこはご理解をいただきたいというふうに思います。

はい、早川先生。

早川教授

富士大学の早川です。

皆様のご意見をお伺いしていて、各委員の皆さんから出た意見として、より多くの人に使われる図書館にしていくんだ、と。これは大体皆さんの同意が得られますね。で、これを基により多くの人が使われる場所はいったいどこかというようなところも、今日は委員の皆さんから出されたと思います。

それで、藤井委員から非常に重要な指摘もありました。これから高齢化率はやはり高まっていくので、車いすとかそういう方でも利用できる図書館にしていくということと、あと高橋委員から子どもたちが行って「良かったよ」と言ってもらえるような立地ですね。そういうところが求められるというところ

ろ。

それともう 1 点。じゃあこういうご意見もありました。駅前につくって、そんなに人が来るんだろうか。活性化に寄与するような働きが果たしてできるのだろうかという点ですが、これはもう先進地の数字を使うしかないと思うんですね。私はこれぐらい、私はこれぐらいという話ではなくて、先進地の駅の周辺、駅から歩いて行けるところにできた図書館が 1 日どのぐらいの人が入って、どのぐらいの利用があるのかというようなことを、今、計画室のほうで相当に緻密に数字をはじき出していますので、じゃあどのぐらいになるのかということですが、僕の経験から言うと、少なく見積もってですよ、少なく見積もって、新図書館は土日は 2000 人は超えると思います。オープン当初は。平日で 800 人程度。逆に言うと、それを大幅に下回るということがあれば、より多くの利用者を獲得していないんだという評価になるのかなと思います。

ただ僕はですね、花巻に来て、花巻というのは非常に魅力的な財産をたくさん持っているまちで、委員の皆さん方からもありましたけれども、関西の人は岩手ってわからなくても花巻はわかるというぐらいですので、そこからするとプラスアルファは望めるかなと思います。そういうふうな人が集まるところに知識と情報が集まって、情報が集まるところに人が集まる、というようなまちになっていけば非常に魅力は増していくのではないかと感じております。そこからすると、今日の委員会で各委員さんからいただいたご意見というのは非常に重い意見だなと感じております。以上です。

座長

ありがとうございます。

ほかにご意見ないでしょうか。

佐々木委員

毎回話しているような気がしているんですけど、私はもう一貫して駅前でございまして、先ほど福盛田さんは別物ではあるけれども、という話もありましたけれども、時期が若干ずれることは、プロセスだとか主体が違うのでもちろん違ってくることもあるわけですが、出来上がった後の姿をお互いに描きながら、JR は JR の立場で駅舎の利用者が増えることを願って投資をするわけですし、駅前に市の図書館という魅力のあるものをつくりたいという自治体に対しては、JR は基本的にはポジティブに考えて応援するということは十分考えられるので、ある程度花巻市側が駅前に魅力的な図書館をつくりたいんだ、と。スポーツ用品店の跡地をぜひ買わせてくれという意味が明確に見えれば、JR はおそらく前向きに話し合うのが経済原理というか、そうなのではないかと、経営者からするとそのように考えるので、ぜひ JR さんと良い話し合いをして、お互いに良い夢を描けるような図書館建設と駅舎を、同じ土俵の上で構想すべきではないかと考えております。以上です。

座長

ありがとうございます。

ほかにありませんでしょうか。

市の関係者の方はなかなか話しづらいと思うので、今回は割愛いたしますけれども、ほかの委員の皆さんで追加でご意見よろしいでしょうか。

佐々木委員

学校の先生方は市の職員という立場ですか。

座長

今回、学校の先生方は欠席で来られなくて、あとは博物館とか学芸員です。

佐々木委員

そういう立場の方は意見言いにくいんでしょうか。一個人としてでいいので。

市川

そうですね、専門的なところからでも構いません。

福盛田委員。

福盛田委員

今、早川先生が当初 2,000 人を見込むという話していましたが、平日で大体 800 人。じゃあ、現在の花巻図書館は土日、どれぐらいの人数が利用されていますか。

座長

館長、いいですか。

梅原委員

コロナになってからは減っておりますので、コロナ前と今という答え方でよろしいですか。

福盛田委員

コロナのないときで。

梅原委員

コロナ前ですと、土日は 600 から 700 人。多いときで 700 人ぐらいという感じでした。そして平日は、300 から 400 人というところだったのですが、今は土日で 400 人ぐらい。少しずつ戻ってきましたけれども、そんな感じですか。平日だと 200 人弱という感じですか。

福盛田委員

そういう利用者の予定で駐車場のことも考えるんですけども、今、どこの駐車場でも、花巻市内の場合の図書館ですけども、東和町で 40 台ぐらいですかね。花巻図書館で、図書館の部分では 20 台ぐらいなんですよね。文化会館の部分を除いてですよ。

梅原館長

図書館の前も駐車場になりました。

福盛田委員

それは最近で、そうなる前はそういう台数で過してきて、石鳥谷図書館は 10 台ぐらいですよ。ほとんどないです。

座長

石鳥谷図書館は図書館の周りのほかに、広大な道の駅がございますので。

福盛田委員

ええ、それは共有されて道の駅で使っているの、図書館の施設としての駐車場ではないですね。

ですからそういうことを考えると、今、図書館に行ってみても20人入って本を見ている、借りているということはほとんどないです。回転率がいいので、そんなに滞在して2時間も3時間もいる人はほとんど少ないので、そんなに広大な駐車場にこだわることはないと思います。大抵大きいところは共有して、いろんな施設と共有されてうまくいっているの、単独の部分ではそんなにがんばらなくてもいいのかな、と。土日だけを考えていくのであればまた別ですけども、図書館に来ている若い人たちはほとんど少ないですね、残念ながら。私は花巻図書館よりも東和町に行きますけれども、図書館は。あと石鳥谷ですね。ただやっぱり入ってきて本を借りている人は、いろんなイベントがあっても少ないですね。

ですから私は、花巻図書館は新しくなれば800人。盛んに始まったところは当然皆さんが興味を持って多くいらっしやると思うのですが、だんだん少なくなる。これからまた25年問題で人口が減ってきます。そういうことを考えると、9万人からちょっと欠けていく、だんだん欠けていく要素が多くなってきているので、駐車場に関してはそんなに気張らなくてもいいのかなと考えています。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。

保育園関係、高橋委員何か建設場所あるいは建設場所じゃなくてもいいですが、少しお話できることはありますか。できれば今こういう議論の中で、場所的に自分の専門のところ、幼児保育とかそういうところとしてはどうだというような何か意見があればどうぞ。

高橋美香委員

やはり親子で利用するという形を考えたときに、駐車場の利用が安全であることであったり、そうすると場所、駐車場のスペースというのは狭いよりは広いほうが使いやすいのかなというところは感じております。

ですので、建物自体も使いやすさを考えたときにというところから考えていけるといいんだろうなと思いますので、前回、まなび学園のところでの話を前任者がしたと思うのですが、本を手に取りながら、そこでゆったり過せる場所、あと自然と触れ合える場所というところでそのような意見が出されたのだらうなというふうなところではちょっと共感したところではあります。

あと、高校生とか学生のことを考えると、駅前利用の仕方というところで、勉強するスペースというところは結構耳にしてきておりまして、そこにちょっと焦点を当てると駅前なのかなと思ったりというところで、選ぶのにやはりちょっと検討が必要というか、いろんなところの良さがあって選べないというのが、私個人としての意見になります。

座長

ありがとうございます。

平澤委員はありますか。

平澤委員

私は駅前でもまなび学園周辺でも、実はどちらでもさほど大差はないかなと思ってはいるんですけど

ど、場所としては。駅前につくると当然学生の利用者数が莫大に増えると思います。そういう意味からすると、利用率はものすごく上がるというのは、予想できることだと思います。

ただ駅前にできたとき、やっぱり狭苦しいものになるんじゃないかなという危惧がともあります。私は住まいが東和なもので、どうしても花巻地域内在住の方とはやっぱり花巻に来るときのイメージとして、まなび学園であっても駅前であっても道路が細かったり、入り組んだりで行きづらいな、と。とても難儀な感じがしています。それは、新しい図書館ができたとしても変わらないような気がするんです。これは単なる感覚ですが、行きにくいなというイメージをどこかで解消してあげなきゃいけないと思うんです。これはとても大切なことで、建物を建てるだけじゃなくてアプローチも含めて考えなきゃいけないと思います。

それで前の会議で私が提案したのが、まなび学園周辺であればイトーヨーカドー側からも入れて、まなび学園からも入れるような建物であれば、両方向性ができてあそこが1つの通路として、市街地の活性化の要素として核ができるんじゃないかなと考えたものでした。

同時に史跡を守るという観点からも、史跡を守りつつそこを緑地公園化して、その中に図書館が建つということで、とてもすてきな花巻の財産ができるんじゃないかなという気がしてはおりました。

ただ、そのどちらがいいかというと、利用者数から推測すると、やっぱり駅前に建てたほうがはるかに伸びは大きいと思います。

座長

ありがとうございます。

それでは、今日のところはよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

では、今日は貴重なご意見をいただいたとっておりますが、事務局からちょっと考えていることがございますので、説明をお願いします。

事務局（高橋次長）

高橋でございます。

事務局から協議とか報告事項として2点ございます。

資料にはありませんが、1点目。現在、ちょうど平澤委員から今お話がありましたが、どんな建物が建つか、狭い場所ではないかというイメージがあるということ、やはり市民の皆さんから多くいただいておりますので、本当にイメージでこの場所に建ったならばこういう感じになるよということを設計の図面ではなくて、手描き風のイメージ図で作成しておりできれば次回の検討会議までには皆様にご提示したいと考えております。制作にあたっては7カ所、今準備しておりますので時間がかかる可能性もありますが、出来上がりましたら、委員の皆さんにご提示したいと思っておりますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

座長

何かご意見ありますか。

今のところ今日も踏まえますと、多くはやはり駅前のスポーツ用品店の場所、あるいはまなび学園でも病院の跡地が大きな候補地となるのではないかな、と。2カ所ですね。と私は思いまして、例えば…、今7カ所と言いましたけれども6カ所ですね。7案を提示しているわけですが、まずはその2カ所だけでも早めにやりまして皆さんに提示、あるいは必要であれば、今までご意見を聞いてきた団体とかです

ね、そういうところでも意見を聞きながらやっていくようなことがいいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

はい、小国委員。

小国委員

その絵というのは 2 カ所、今回候補に挙がっている駅前とまなび学園のイメージ図を 7 種類ということですか？

事務局（高橋次長）

今、検討候補地の、資料 1 で皆様に提示しているのは、実は 2 エリア 6 カ所ございます。エリアとしては花巻駅周辺とまなび学園。候補地としては駅前ではスポーツ用品店跡地と駐車場の場所。まなび学園では旧総合花巻病院跡地、まなび学園の前、体育館を撤去した跡、あと元営林署跡地ということでご提示しています。

営林署跡地については縦横変えるという形で駐車場をやっていますので、それを今ご提示させていただいておりますので、ということで 7 案という感じになっております。

小国委員

ということは、今回の 2 カ所の場所を設定するための絵を見せるという考え方でしょうか。

座長

6 カ所の候補地にどのように配置してどんな感じの図書館になるのかという、今やはり狭いんじゃないかとかですね、駐車場が立体駐車場になったらどうなるんだというようなところがあるかなと思いますので、それをやはりわかりやすく説明していくためには、ある程度のイメージが必要ではないかと。設計に入っているわけではないので、具体的には描けないというところがあります。ただ、そのイメージとしてこういうような感じになるというのをつくったらどうかということで検討していました。

その上で、今私たちの検討会議の中では、意見が多いのは駅前としてもスポーツ用品店の場所。あとまなび学園周辺としても総合花巻病院の跡地の意見がまず大きいのではないかなと考えますので、6 カ所のイメージ図をつくると、事務局が申したとおり時間がまたかかる可能性もあるので、まず 2 つを示す方向でやったほうがいいんじゃないかなと私は今思ったわけですが、いかがでしょうか。2 つについてイメージをまずつくってみて、ご覧いただいてもっとつくったほうがいいのかというのであれば、それでまたやるということもできます。

早川教授

委員の皆様のご意見で、病院跡地と、問題は駅のほうなんですけど、スポーツ用品店と駐車場がありますよね。それについては委員の皆様から明確な形でどっちというのはどうだったんですかね。そこについては。

市川座長

今、候補地で意見が多いのはスポーツ用品店。こちらにありますね。駅がそっちにありますので。ここにあるスポーツ用品店の場所。もう 1 つ、駅周辺という括りの中では、東側の駐車場がそこにあります。その駐車場の場所に建てるという案も資料の 17 ページに出しております。ただしこれは課題としては、

狭いので3階建てになるのと、ここに駐車場がなくなってしまうということは大きいんじゃないかというお話をしてきた中で、やっぱりここですとスポーツ用品店の場所を買って建てるというような意見が多かったかな、という気がしておりますが、そこは例えばここは2カ所の案をイメージでつくったほうがいいとかというのは、今決めなくてもいいです。とりあえず我々としては、もしよろしければ2カ所先行でつくって、これだけでは足りないんじゃないかという意見があれば他にもつくっていくというのもあり得るかなと思います。

はい、佐々木委員。

佐々木委員

スポーツ用品店の跡地を購入して建てる案がその一でよろしいかと思うんですけども、仮に今おっしゃったなはんプラザの東側の跡地に建てる場合でも、このスポーツ用品店の場所をどう使うのかということも一緒に考えないと、今のままスポーツ用品店があるままで駅の橋上化はちょっとわかりませんし、図書館が新しくなってもスポーツ用品店があそこにあるままでいいのか、という話が。JRにどう働きかけてそこをどう使わせるのかとか、やっぱり駅に非常に近いスペースになるので、最悪、例えば駐車場か何かにしてもらって、あるいは駅舎のほうでももうちょっとJRが魅力的なものを考えるかどうかという、ちょっとたぶん採算に合わないことを考えると、たぶんスポーツ用品店の跡地に図書館をつくる案が有力ではないかなというふうに考えるんですけど。

それから、いろいろ議論をこれまでしてきたものを踏まえていただいた上で絵をきちんと出していたかかないと、議論が戻ることもなりかねないし、イメージ図をつくるというのは非常に難しく、それで一定のイメージを他の方々に与えるということですから、かなり慎重にやっていただく必要があるんだろうなと思っております。

それから、まだ設計図面ではないとはいいいながらも、設計者というのは絵も描くという、そのプロセスの関係です。細かい図面を描く前に意匠図を描いたり、もうちょっと簡単な絵も描いたりする設計屋さんがいることを考えると、その業者選定が設計事務所の選定につながってくる可能性があることも踏まえて業者選定をしていただきたいものだなというふうに商工会議所とすると考えます。

事務局（高橋次長）

ご意見ありがとうございます。

佐々木委員から今ご心配いただいた内容なんですけれども、私どもでも危惧しております、今の状態では基本設計をしていない状態ですし、今後プロポーザル等考えたときに影響があることをやはり考えました。街全体をイメージしていただくような形を検討しております。おっしゃるとおり建物を具体的にしてしまうと今後影響がありますので、そこには十分留意して進めたいと考えております。

平澤委員

スケール感は。

市川座長

スケール感は平面図に書いてある4,500平米という考え方ですね。

佐々木委員

あと、場所を決めるための絵を描くという位置付けでやっていますけれども、たぶんどちらかの案に決

まった後に具体的な設計図を起こす段階でも、今度は設計士の方が絵を描いて皆さんと意見を戦わせるようなシーンも出てきたときに、それはもう 1 回すでにやっているんじゃないの、みたいな話にならないようにご検討いただければと思います。

市川座長

大丈夫です。そこはさっき少しわかりづらかったかもしれませんが、設計士等の方にはお願いしない。つまり今回のことは設計関係の方とか建設関係の方に描いてもらうことになるので、そこはまた後々問題になる可能性があるの、そこは十分に配慮してやるということです。

佐々木委員

さらにちょっと追加です。今更の話で申し訳ないんですけども、我々は 1 年以上もこういう議論をしてきて、プロセスを体感してきて、どういう図書館のイメージをしようとする人がここにたまたまいらっしやるんですけど、新たに例えば設計の図面を描く人にこのプロセスをきちんと伝えていくというのは結構大変なことだと思うんですね。

商工会議所とすると、できるのであれば地元の設計者なり地元の建設会社を使っていただくことで、結構ハードルは高いかもしれないけれども、一緒に考えて熱意をもって仕事に取り組むことでまちづくり全体にもつながるだろうという思いもあるので、ぜひそういうことも検討していただきたいのですが、ついてはそういう方も、こういうプロセスを聞いてきた方に関わってほしいなという思いもあって、そういう委員の選定の難しさなんかもあると思うんですけど、でもどこかでこの議論とかは、そういう立場の方にも聞いてもらわなければいけないのかなという感じはいたします。

事務局（高橋次長）

ご意見ありがとうございます。

この部分についてはすごく慎重になる部分とご意見をいただいた部分、両輪で考えていきたいと思えます。今の段階ではっきりしたことを申し上げられないのは大変恐縮ですが、検討の中では進めさせていきたいと思えます。

市川座長

あともう 1 点だけ、すみません。スポーツ用品店については、なくなるというわけではないので、そこは JR さんとの関係でありますので、違う場所に建てた場合は基本的には残ると考えております。

佐々木委員

残る案でいいかどうかですね。

座長

案というか、それは経営されている方々のお考えなので、市のほうでどうということにはならないと考えております。

ほかにご意見ありますか。

はい、小国委員。

小国委員

2 カ所の選定のための絵ということですよ。いわゆる素人が想像で描いただけの絵ですから、実際の

図書館になると限らないですよ。だからイメージになるのかなという。であれば、自分たちの想像の絵を描くのも同じで、皆自分の頭の中にあるような気がするんですけども。で、こんなものが建ちますよ、というわけでもないんで、あまり意味がないんじゃないかなという気がします。

座長

はい、ありがとうございます。

それがですね、いわゆる建築パース的にもう出来たイメージというほどではなくて、やはりこの平面図を見て皆さんが理解できるかということなんです。一般の方というと失礼ですけども、例えばここで今まで話している中では、これだけの時間を掛けてこのイメージがつかめるかと思うんですが、やはり最終的に説明したときに、ある程度もう少しわかりやすく、狭いのではないかと、広いのではないかと、駐車場とはどういうイメージかということを示せたらな、という考えがあります。次回までにある程度つくってみて、またご意見をいただければと思います。よろしいですか。

はい、早川先生。

早川座長

市のほうの決断の時期と関わる問題かなと思います。この検討委員会で非常に貴重な重い意見が出たと申しあげましたけれども、もしここで多数決とか手を挙げると、ある程度の方向性がこの委員会でも見えてきたんじゃないかと事務局のほうで判断するか、それともまだまだなのか。2カ所、3カ所で話を進めていくのか、という判断はやっぱり必要かなと思います。仮に、もう2カ所、3カ所ではないというふうに市が決断をすれば絵を描くのはその後でもいいのではないかな、と。小国委員、佐々木委員から指摘があったように慎重にも慎重を期してやらないと。そして平澤委員からあったようにスケール感もそのままにするんですかといったら、誰が見ても「あれ？こうなるのかな」と思われると思います。公開するかどうかもあるんですけども、そこはやっぱり事務局、市のほうとしてももう一度慎重に検討されたほうがいいかなと思います。

あと、佐々木委員の指摘は非常に重要で、これほど回を重ねて細部にわたって検討してきた検討委員会の内容を形にできる設計者というのは、ものすごい力量が求められます。間違いなくハイレベルですね。そのときに佐々木委員のおっしゃっているように次の検討の段階でもう来てもらう、と。決まれば。必要であれば委員の皆様から、どういうふうに形にするのかというのをディスカッションしながらやっていると、ずれのない絵を描いてもらえるかな、と思います。設計については、いろんなことが起きていますので、そこについては佐々木委員のおっしゃったとおり、もう早い段階から決定したら入っていただく。議論をしながら。ここで議論をされたようなことが理解できないような設計者では非常に危険な状態になりますので、そのところは事務局のほうにお話しておきたいと思います。以上です。

事務局（佐々木室長）

今回皆様にお示しするものは、あくまでもこの今の2カ所。まあ2カ所とお話がありましたけれども、2カ所の立地、場所、周りにこういうものがあって、その中にこういう図書館が、いま議論されているこういう面積で、例えば2階建てとか、そういうような形のもので建つんだよ、というのを具体的に見ていただこうと、そういう意味のイラストといいますか、絵ということになりますので、詳細な設計ができたものについてここに描くというのではなくて、あくまでもこの立地の中に、こういう規模の建物をつくる場合はこのような形になるというのをイメージしていただくためのものというふうにご理解いただ

ければと思っております。

座長

はい、ありがとうございます。

ほかにご意見ありますでしょうか。

はい、白岩委員。

白岩委員

白岩です。

ちょっと質問になると思うのですが、前にもしたと思うのですが、さっきスケジュールの件で、どう考えても2、3年では無理ですよ。そうすると、花巻市では令和6年度から第二次長期まちづくり総合計画をつくりましますよ。そうすると、そこと被ってしまうと、例えば私たちがここで検討した中身が、第二次長期プランになっておじゃん、まるっきりそのときの検討メンバーの方々によって白紙になるとか、そういう可能性もあるかもしれないですよ。

だから、こちらで話し合ったことは、何て言うか責任をもって第二次長期プランの中の会議に入るのか、それとももしかしたら今までこちらでやってきたことが白紙になる可能性もあるかもしれない。どういう流れというか、その第二次長期プランとの関連性というか。例えばどなたか計画室のほうから検討現場にはいるのかどうか、どういう見通しかというのを教えてほしいんですけど。

事務局（高橋次長）

今、総合計画との整合性というご質問でしたが、基本的に、今回皆さんには新花巻図書館を建てるための基本計画の基となる試案についてご検討いただいております。ですので、皆さんからご意見をいただいたこちらの試案は、この後市民参画やいろんな手続きを経て基本計画になりますけれども、皆様のご意見はそちらに反映するものだと思いますし、総合計画等々にはこちらが優勢になるもので、こちらを優先にして進めていくものというふうに考えております。以上でございます。

白岩委員

考えるとわかるんですが、この前市議会を傍聴したときに、高校生から若手、20代だかでワークショップをやるとか、あとは花巻市の方にアンケートを配布した中から抽出して、その中で検討グループをつくるとかというのまで聞いたんですけど、そうするとその中に、例えば計画室にこちらの意見がどういう流れで反映されるのか、全く反映されないのか、ちょっと不安、不安というか、きちんと例えば、図書館はまちづくりの中の本当に重要な位置になると思うので、それがなかったことにされるともう、心配で。まあ、ある理由でなくなっても仕方がないかもしれませんが、きちんとそれは会議というか討論の場できちんと通してほしいというか、そういう流れなのかどうかというのがすごく不安なので聞いたんですけど。考えればわかるんですけど、そういう仕組みというかシステムになっているのかどうかというのを教えてほしいです。

市川座長

まちづくり総合計画というのは花巻市全体の計画をつくるというのが今のお話ですね。それと我々が今つくっている図書館の基本計画は別なものなのかというと、別ではなくて、当然その中に含まれていくものです。つまりまちづくり総合計画をつくっている、例えばワークショップなり何とかでやっていくと

いっても、我々が今図書館を考えている基本計画は全く別というわけではなくて、当然それも含まれていくもの、整合性が取れると表現しますけれども、そういうものですので、そこは大丈夫心配しなくてよいと思います。

ほかにありますでしょうか、ご意見。

よろしいでしょうか。あと事務局から。

事務局（高橋次長）

また検討報告事項になります。

2点目はですね、本日資料2として配布させていただきました新花巻図書館整備基本計画の試案バージョン2と言い換えさせていただきましたが、こちらについてです。

こちらにつきましては、前回までの検討会議でご意見いただいたものを集約して反映させていただいたものになっております。本日皆様に配布させていただきましたので、今一度ご確認いただいて、新花巻図書館、今回は新花巻図書館の機能やサービス面のみ記載しておりますので、皆様の所属団体等とあわせてご意見を頂戴できればというふうに思っております。

また、本日の内容のほうについてですが、赤字に記載した部分は、前回検討の中で皆様にご提示した中から言い回し等の修正や、データを最新にしたものにしております。青字で記載している部分については、新花巻図書館の開館時間と収蔵能力になります。こちらにつきましては、現在、早川先生にご指導いただきながらいろんな自治体のデータを集めて、現在も検討を進めておりますので、今後、整理の上、改めてこちらの部分にはご提示させていただければと思いますので、よろしくご理解いただければと思います。以上でございます。

座長

今の件でご質問ありますか。

藤井委員

これはコピーをして検討資料つくっていいですか？

事務局（高橋次長）

未定稿というふうには書かせていただいておりますので、まだ確定ではないので、できれば委員の皆さんのみとしていただければと存じます。こちらはまだ確定ではないものですので、申し訳ございません、よろしくご理解いただければと思います。

藤井委員

了解。

座長

よろしいでしょうか。

それでは以上でしょうか。

はい、では事務局お願いします。

事務局（高橋次長）

本会議ですが、次回につきまして、次回は7月5日、7日のいずれか。7月の第1火曜日か木曜日を第1候補として検討しております。日程につきましては毎回同じように、改めてご連絡させていただいて調整させていただければと思いますので、よろしくお取り計らいいただければと思います。

すみません、あともう1点ですね。皆様のお手元に HANAMAKI Book Marks からイラストを描いた要望書のようなものが、バージョン1、バージョン2ということであるかと思えます。そちらのほう、本日資料として当初説明しておりませんでした。昨年度、市、市長に対して要望のあった若者団体からの要望書の内容になっております。今回プレゼンというお話もありましたが、まずはこちらの内容でご確認いただいて、今後ブックマークスさんに確認して、こちらをプレゼンしたいかどうかという意向を確認した上で、また改めて確認させていただければと思いますので、まずは要望内容のほうをご確認いただければと思います。以上でございます。

事務局（佐々木室長）

それでは委員の皆様、本日も活発なご議論をいただきまして、本当にありがとうございます。次回につきましても、先ほどもお話をさせていただきましたけれども、また日程の調整をさせていただければと考えてございます。お忙しいところ大変恐縮ですが、また日程調整をお願いしたいと思います。

それではこれもちまして、第9回の新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を終了いたします。

本日は長時間にわたりましてありがとうございました。